



学校だより

No.557

令和 6年 2月29日

練馬区立田柄第二小学校

校長 岩井 一 雄

令和 5 年度学校評価アンケート集計結果報告

教育目標：◎思いやる子供 ・元気な子供 ・考える子供

学校評価アンケート集計結果をお知らせします

日頃より本校の教育活動へのご理解ご支援をいただきありがとうございます。

2学期末にご協力いただきました、児童／保護者アンケートの結果をまとめましたので、ご報告します。

回答数 保護者

児童

★昨年度の調査結果との比較を示しています★

肯定

・とても思う
・やや思う

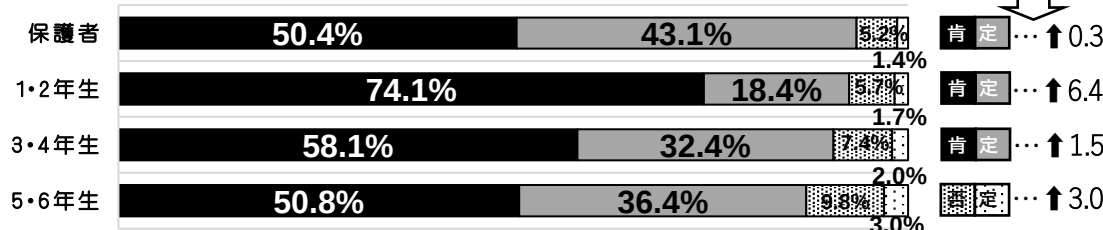
否定

・あまり思わない
・全く思わない

「↑1.5」 ←昨年との差異を表しています

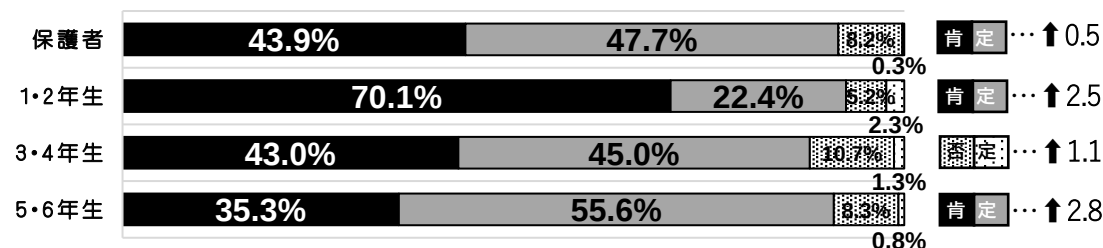
「昨年度と比べて【肯定・否定的意見】が〇%増えた」と読んでください。

1 毎日楽しく学校に通っている



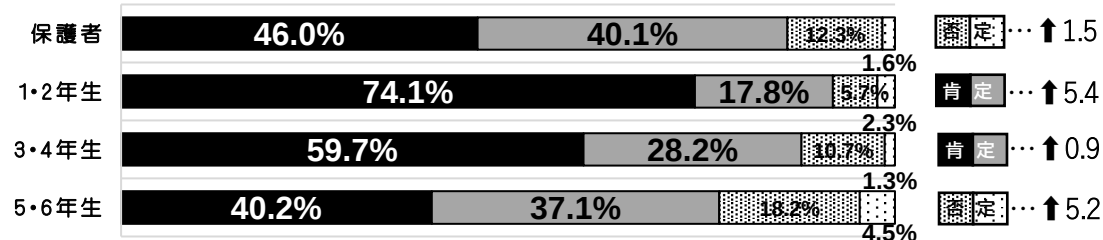
田二小に楽しく通っているという回答が多く集まりました。否定的評価をした子に寄り添いながら、各学年の子供たちの実態に応じた、活発な活動を取り入れて、学校に来ることを楽しめるよう工夫していきます。

2 進んで学習に取り組み、学んだことを理解している



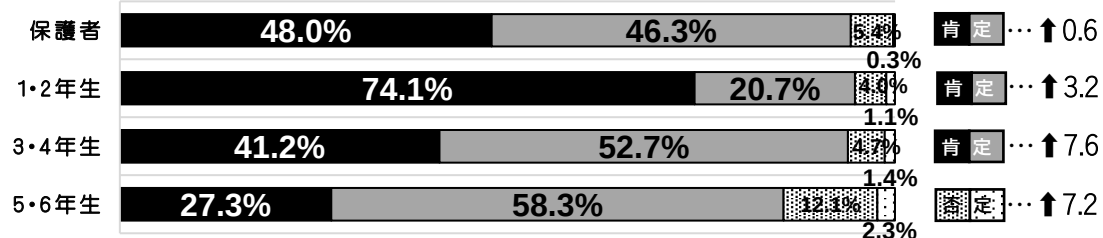
中学年になると学習量が増え、内容も難しくなる傾向にあります。「小4の壁」とも言われることもあります。日々の学習の積み重ねを大切にして、高学年、中学校の学びにつながるよう、指導していきます。

3 進んで運動に取り組み、体を動かすことを楽しんでいる



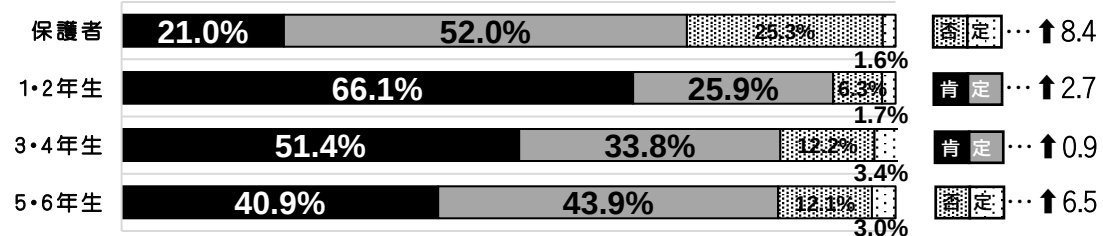
新体力テストの結果にも表れているように、児童の体力低下は本校の課題です。体育の授業の工夫改善や、休みに積極的に体を動かすことの推奨など、運動の習慣が定着していくよう努めます。

4 学校や家庭のルールを守って、生活しようと意識している



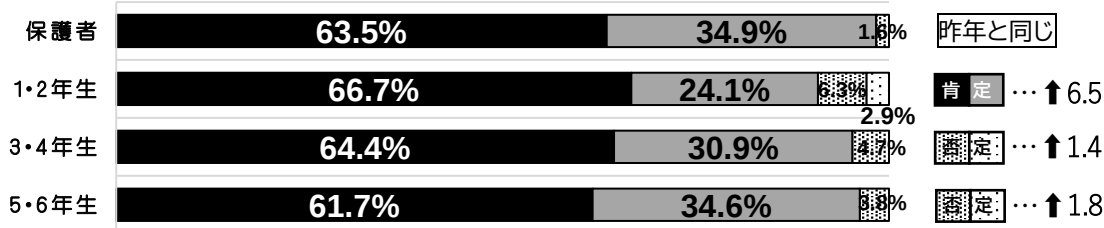
本校の子供たちの規範意識の高さは、誇るべきものがあります。これはご家庭でもしっかりと意識してくださっているからと考えます。高学年の否定的意見は成長の過程ともいえますが、子供たちの日々の言動にしっかりと目を向け対応して自覚を促していきます。

5 自分からすすんで挨拶している



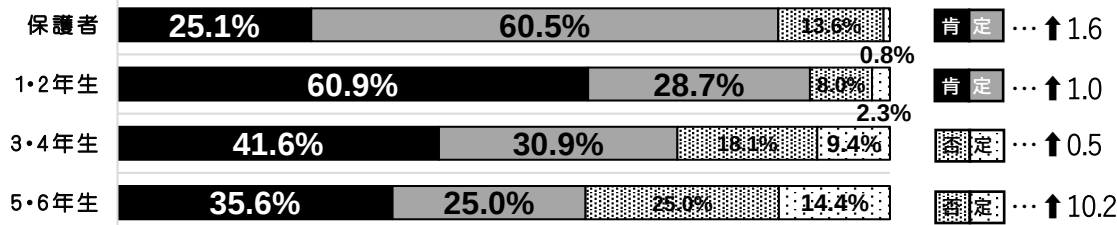
校内でも、挨拶する子としない子の二極化が見られるので、生活目標などでも呼びかけています。代表委員会でも「あいさつ運動」が企画されています。挨拶のもたらす良さを実感できるよう継続的に働きかけていきます。

6 いじめが良くないことだと理解し、友達の良いところを認め仲良くしようとしている



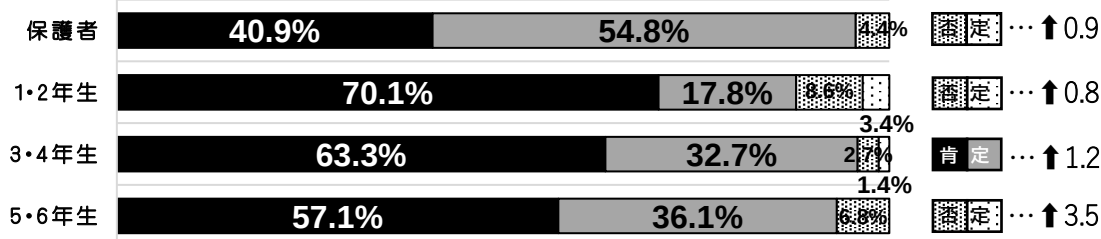
3～6年生の回答に課題が見られます。学校では「いじめは良くないことである」と繰り返し指導しています。「友達の良いところを認める」については、具体的な場面を通じて、子供に経験を積みながら理解につなげていきます。

7 悩んだり困ったりすると、自分から家族や先生に相談できる



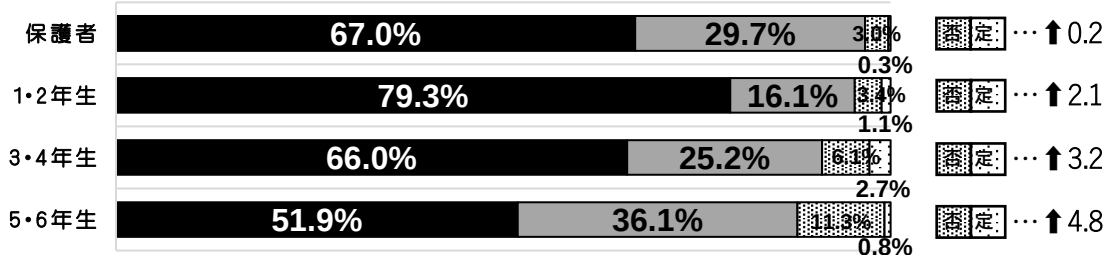
昨年度に比べ5・6年生の回答に課題があることが分かります。最近はスマートフォンでのトラブルが多く、学校での早期発見が難しいこともあります。悩みを自分から言い出せない子供の異変に気づくことが大人の役割です。学校(カウンセラー等)と家庭での連携が必要だと考えます。

8 健康や安全に気をつけて生活することができる



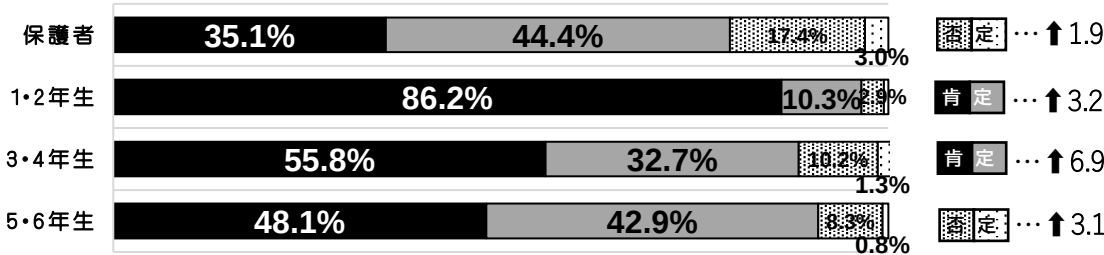
感染症の懸念は減ってきていますが、放課後、学校外で不審者などにより不安な思いを感じたというケースが増えています。子供自身が意識を高くもち、危険を回避していけるよう、セーフティ教室などでの啓発をしていきます。

9 学校行事を通して成長した



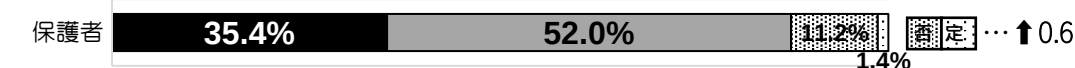
今後の学校行事のあり方については、大きな課題です。様々な状況を鑑みて、子供たちが自らの成長を実感できる機会としてより充実した学校行事を検討してまいります。

10 タブレット端末を学習に活用することができる



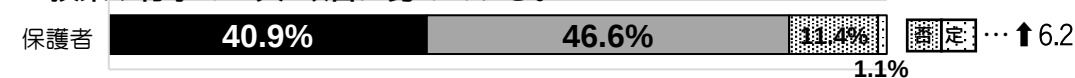
子供たちの ICT 活用能力はみるみるうちに向上します。それに見合った教員側の活用能力向上と、通信環境整備は急務です。区全体としても焦点を当てて取り組んでいます。改めて要望します。

11 学校は教育活動に必要な連絡や情報を、保護者にわかりやすく伝えている



新たな連絡システムが導入されますので、学校からのお知らせがスマートフォンで確認しやすくなります。

12 学校はお子さんが生き生きと取り組み、力を伸ばすことができるような、授業や行事の工夫・改善に努めている。



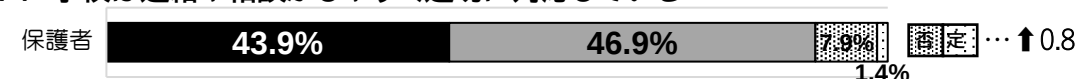
学校の教育活動のあり方が、コロナ禍以降刷新されてきています。児童の発想・意欲も生かした行事等の改善を進めていきます。

13 学校はお子さんの人権を尊重し、努力を認めたり励ましたりしている



お子さん的人格形成に関わる重要な立場として、教職員の意識向上を図ります。

14 学校は連絡や相談がしやすく適切に対応している



新たなシステムにより、連絡手段が増えます。